

新潟市歴史資料だより

資料紹介

両川連絡所文書

両川村は、明治34（1901）年に和舞村・酒屋村・割野村・嘉瀬村が合併して成立し、役場は酒屋に置かれました。昭和32（1957）年に新潟市に合併し、役場は支所になりました。

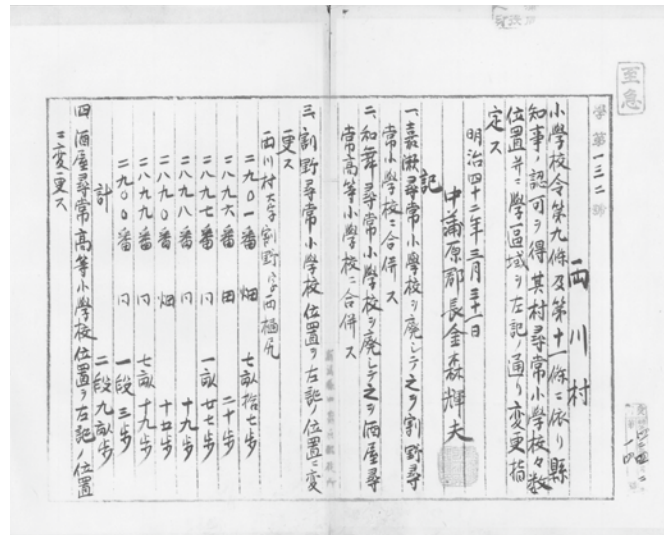
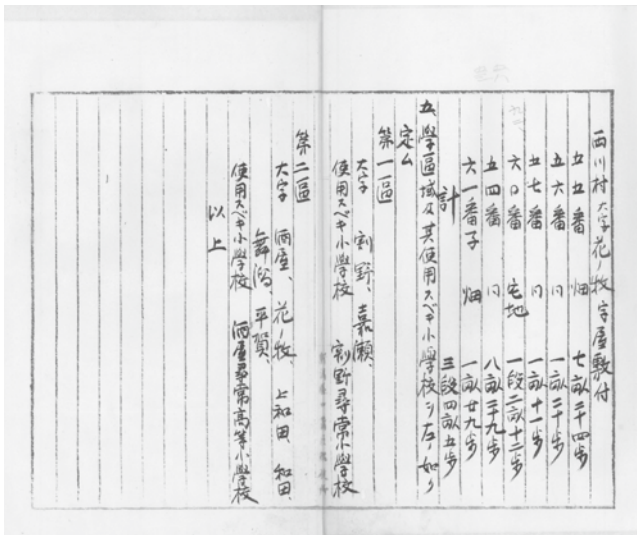
両川連絡所文書は、旧両川村役場の公文書を中心とする文書群で、両川村成立以前の文書や新潟市に合併後の支所の文書も一部含んでいます。資料点数は1,323点です。

掲載した文書は「学校新築ニ関スル綴」の表題が付いた簿冊に綴られた文書の一つです。この簿冊には、明治42年から44年までの、学校の統合や校舎の新築・改築などに関する23件の文書が綴られています。掲載した文書は、中蒲原郡長が両川村宛てに出

した文書で、嘉瀬尋常小学校と和舞尋常小学校を廃止して、それぞれ割野尋常小学校と酒屋尋常高等小学校に統合すること、両校の位置と敷地、2つの学区とそれぞれが使用するべき小学校について指定しています。

明治40年、政府は小学校令を改正して、義務教育の年限をそれまでの4年から6年に延長しました。そのため校舎が狭くなり、児童を収容できなくなる問題が各地で発生しました。両川村では、それまで4校あった小学校を2校に統合して、校舎を新築しました。統合時の児童数は、割野小学校が257人、酒屋小学校が347人でした。また、新しい校舎は、割野小学校が43年、酒屋小学校が45年に完成しました。

両校は今年3月に閉校・統合し、4月から両川小学校になります。



<p>学第一三二号</p> <p>両川村</p> <p>小学校令第九条及第十一条ニ依り県知事ノ認可ヲ得、其村尋常小学校々数位置并ニ学区域ヲ左記ノ通り變更指定ス</p> <p>明治四十二年三月三十一日</p> <p>中蒲原郡長 金森輝夫</p> <p>記</p> <p>一、嘉瀬尋常小学校ヲ廢シテ之ヲ割野尋常小学校ニ合併ス</p> <p>二、和舞尋常小学校ヲ廢シテ之ヲ酒屋尋常高等小学校ニ合併ス</p> <p>三、割野尋常小学校位置ヲ左記ノ位置ニ變更ス</p> <p>両川村大字割野字西樋尻</p> <p>二九〇一番 畑 七畝拾七歩</p> <p>二八九六番 田 二十歩</p> <p>二八九七番 同 一畝廿七歩</p> <p>二八九八番 同 一畝廿七歩</p> <p>二八九九番 同 一畝廿七歩</p> <p>二九〇〇番 畑 十五歩</p> <p>二八九九番 同 七畝十九歩</p> <p>二九〇〇番 同 一段三歩</p> <p>計 二段九畝歩</p> <p>四、酒屋尋常高等小学校位置ヲ左記ノ位置ニ變更ス</p> <p>両川村大字花ノ牧字屋敷付</p> <p>五五番 畑 七畝二十四歩</p> <p>五六番 同 一畝二十歩</p> <p>五七番 同 一畝十一歩</p> <p>五八番 同 一畝十一歩</p> <p>五九番 宅地 一段二畝十二歩</p> <p>六〇番 同 八畝二十九歩</p> <p>六一番 畑 一畝廿九歩</p> <p>計 三段四畝五歩</p> <p>五、学区域及其使用スベキ小学校ヲ左ノ如ク定ム</p> <p>第一区</p> <p>大字 割野、嘉瀬</p> <p>使用スベキ小学校 割野尋常小学校</p> <p>第二区</p> <p>大字 酒屋、花ノ牧、上和田、和田、舞渴、平賀</p> <p>使用スベキ小学校 酒屋尋常高等小学校</p> <p>以上</p>

平成21年度事業概要

多くの方々のご協力を得て、資料の公開・保存などに関する事業を実施しました。その概要を紹介します。

■資料の公開

歴史資料整備室で古文書等の複製資料や図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図は横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所3階）で公開しています。利用の際には、事前に歴史資料整備室へご連絡ください。

今年度の一般利用状況は以下のとおりです。

区分	図書	更正図	文書	公文書	写真	計
閲覧	21	60	58	8	5	152
複写	53	50	108	13	52	276
掲載	12	0	10	0	50	72
計	86	110	176	21	107	500

(平成22年3月25日現在)

■公文書分類センター

合併により旧市町村から引き継いだ公文書等の散逸防止と歴史的公文書の保存を目的として、各出張所内に設けた6か所の公文書分類センターで、順次、整理・目録作成を行っています。

今年度は、小須戸・月潟公文書分類センター収納文書の整理・目録作成を実施しました。小須戸センターでは、旧5支所の総務課以外の各課と全市の教育委員会・農業委員会の長期保存文書の目録化を完了しました。月潟センターでは、合併市町村の建設補助・国土調査の文書の目録化を完了しました。

今年度で公文書分類センターに収納された長期保存文書の目録化が完了しました。作成した目録は、今後、歴史的文書の選別や文書の管理に活用します。

センター	主な収納文書	整理計画
味方	旧14支所の総務課および旧新潟市総務局の長期保存文書	H19年度完了
小須戸	旧5支所の総務課以外の課および全市の教育委員会・農業委員会の長期保存文書	H21年度完了
岩室	旧9支所の総務課以外の課および旧新潟市総務局以外の長期保存文書	H20年度完了
横越	全市の旧土地台帳および旧更正図（地籍図）等	H20年度完了
月潟	旧14支所の建設補助・国土調査の文書	H21年度完了
潟東	新潟市の有期限保存文書	—

各公文書分類センターの概要

■資料の保存

①資料の整理

歴史資料整備室では、新潟市史編さんで収集した資料や寄贈資料等の整理を行っています。

今年度は、秋葉区鎌倉新田小柳家文書と南区茨曾根関根家文書の整理・目録作成を行いました。

②資料のマイクロフィルム撮影及び複製本の作成

歴史的な文書等のマイクロフィルム撮影と焼付けによる複製本を作成しています。今年度の撮影フィルムの本数は71本、作成した複製本は下記のとおりです。B5判、1冊約90ページです。

・豊栄市役所文書（江戸～昭和期）：477冊

③歴史資料の補修

傷んだ旧更正図（地籍図）・絵図等の裏打ち・軸装補修を実施しています。今年度は、旧新潟市・旧白根市・旧巻町・旧岩室村などの旧更正図のほか、中ノ口川河川台帳附図（味方地内）など、軸装図31点、折畳図13点の補修を実施しました。

■資料の調査収集

①資料所在調査

平成17年度より、合併市町村の主な民間所蔵資料の現状確認調査を実施しています。今年度は横越地区25か所の調査を行いました。

②歴史的公文書の引き継ぎ

平成6年度より、廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を選別して歴史的な文書として引き継ぎ、保存しています。今年度は118点、文書保存箱にして11箱を引き継ぎました。

■『新・新潟歴史双書5 鉄道と新潟』の刊行

「新・新潟歴史双書」の5冊目として、『鉄道と新潟』を刊行しました。

明治30（1897）年11月、現在の新潟市域に初めて列車が走りました。鉄道は人々の移動や貨物の輸送に大変革をもたらし、新潟の近代化を推し進めました。また、現在も日常の公共交通機関として、重要な役割を果たしています。本書は、明治時代の鉄道建設から現在に至る、新潟の鉄道の歴史を記したものです。

市歴史博物館（みなとぴあ）と市内の一部書店で4月下旬から販売する予定です。

・四六判、約160ページ

■歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

10月15・29日、11月5・13日に、新潟市生涯学習センター（クロスパル）で歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」を開催し、55名の方々からご参加いただきました。各回の講義名と講師は右表のとおりです。

昨年は大河ドラマ「天地人」が放送され、西蒲区石瀬の天神山城主だった大国実頼も登場しました。また、新潟開港から140年にあたる年でした。参加された方々は熱心に聴講され、質疑も活発に交わされました。

日程	講義名	講師
10/15	直江兼続・大国実頼と中世の新潟	長岡市立中央図書館文書資料室 田中洋史
	資料紹介「『天地人』ゆかりの新潟	歴史文化課 大平淳一
10/29	新潟開港への道をたどる	元新潟市史執筆編集員 中野三義
	資料紹介「新潟市中風俗書」	歴史文化課 三田裕子
11/5	北辰隊の軌跡	東蒲原郡史執筆員 真水 淳
	史料で見る「明治天皇巡幸」	歴史文化課 福田仁史
11/13	古代の村と人々の暮らし	新潟郷土史研究会会長 伊藤善允
	資料紹介「大沢谷内遺跡出土の九々木簡」	歴史文化課 相沢 央

歴史文化施設紹介

— 新潟大学旭町学術資料展示館 —

新潟大学は、戦後の学制改革により昭和24（1949）年に開学しましたが、各学部の前身となる教育研究機関は明治から大正にかけて設立されました。新潟大学旭町学術資料展示館（通称：あさひまち展示館）は、大学が所蔵する貴重な学術資料を広く学内外に公開することを目的として、平成13（2001）年に開館しました。

展示館は5つの展示室から構成されています。「自然・技術の歩み」と「人類史」の展示室は常設展示で、人骨の標本や考古資料、心理学や物理学の実験器具などが展示されています。「芸術」展示室と「図書資料」コーナーでは、教育学部所蔵の芸術作品や附属図書館所蔵の古典籍・古文書などの企画展示が行われます。「企画展示室」では、さまざまなテーマの企画展が年3回程度開催されます。

展示館の建物は、昭和4（1929）年に旧新潟師範学校（教育学部の前身）の記念館として建てられ、平成17（2005）年、昭和初期の建築の特徴を伝える建物として国の登録有形文化財になりました。



新潟大学旭町学術資料展示館（あさひまち展示館）



「人類史」展示室

<案内>

- ・開館時間：午前10時～午後4時30分
- ・休館日：月・火曜日、年末年始
- ・入館料：無料
- ・所在地：新潟市中央区旭町通2番町746
- ・電話：025-227-2260
- ・交通：バス停「東中通」から徒歩約5分
バス停「市役所前」から徒歩約7分
JR白山駅から徒歩約15分
JR新潟駅から車で約10分



写真紹介

新潟を走る蒸気機関車

右に掲載した3枚の写真は、明治後期から大正初期の現新潟市域を走る蒸気機関車の写真です。いずれも絵葉書を複製したもので、庶務課旧蔵の写真アルバムに収められています。

現市域を初めて列車が走ったのは、明治30(1897)年11月です。北越鉄道という私鉄で、この時に沼垂駅ーノ木戸駅(現在の東三条駅)間が開業しました。37年5月には路線が延長され、新潟駅が開業しました。当時の新潟駅は現在の駅の北西約300メートルの場所(中央区南万代町の弁天公園付近)にありました。北越鉄道(直江津駅-新潟駅間)は明治40年に国有化され、信越線の一部になりました。その後、大正元(1912)年までに、白新線と貨物線を除く現市域の鉄道路線のほとんどが開通しました。また、沼垂駅は昭和33(1958)年に現在の新潟駅が開業したのに伴い旅客営業をやめて、貨物専用駅になりました。

写真1 北越鉄道の列車が新潟駅を出発するところです。機関車は燃料や水を積んだ炭水車を連結しないタンク車で、貨車と客車を牽引しています。ホームには多くの見物人がいます。また、手前では子どもが列車を見えています。鉄道関係者らしき人たちの姿も見えます。新潟駅の開業から間もない頃でしょうか。

写真2 北越鉄道の列車が新栗ノ木川の鉄橋を渡っています。写真1と同じ形式の機関車が客車と貨車を牽引しています。沼垂駅を出発した列車は、沼垂小学校の脇を通過して新栗ノ木川を渡り、亀田駅へと向かいます。

写真3 大正元(1912)年9月の新発田線(新津駅-新発田駅間、現在のJR羽越線の一部)の開通を記念して作られた絵葉書です。貨車を何両も連結した列車が阿賀野川の鉄橋を渡っています。



写真1 新潟駅を発車する列車

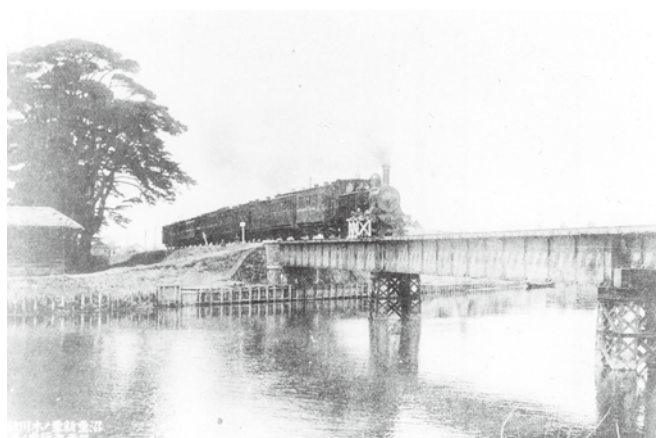


写真2 新栗ノ木川の鉄橋を通過する列車

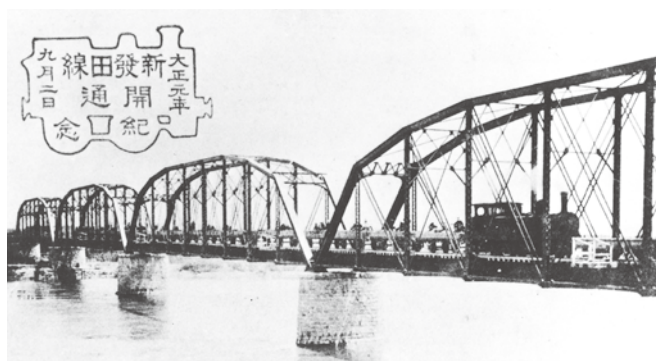


写真3 阿賀野川の鉄橋を通過する列車

お願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、ご連絡ください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行 新潟市文化観光・スポーツ部
歴史文化課(担当:歴史資料整備室)
〒951-8131 新潟市中央区白山浦1丁目425-9
TEL 025-226-2584
FAX 025-230-0412
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp